

# 平成24年度 第64回全日本9人制バレーボール実業団女子選手権大会 戦評

期 日：平成24年7月22日（日）

会 場：福島県営あづま総合体育館

試合時間 43分

【準決勝】  $\frac{\text{パナソニックエナジー}}{\text{(大阪府)}} 2 \left[ \begin{array}{c} 21 - 15 \\ 21 - 11 \end{array} \right] 0 \frac{\text{山梨中央銀行}}{\text{(山梨県)}}$

(主審)伊藤 公一(秋田県) (副審)小林 勝(神奈川県)

昨年優勝のパナソニックエナジーと、第3位の山梨中央銀行の対戦となった。

第1セットはパナソニックエナジーがレフト内藤、センター山本の攻撃を中心に常に優位にゲームを進める。これに対して、山梨中央銀行は川久保らのスパイクや持ち前の粘りのバレーで必死に食い下がる。しかし、山梨中央銀行は、なかなかリズムに乗れずパナソニックエナジーがセットを先取した。

第2セットは、序盤から一進一退の攻防が続く。山梨中央銀行の川久保スパイク、仲田のブロックポイント、伊藤の2本の連続サーブポイントと点を重ねるが、パナソニックエナジー小川、宮本のサーブポイントで勢いに乗ると、その後は内藤のスパイクなどで最後まで危なげない試合運びでこの試合を制した。

(戦評) 神林 清松(茨城県)

試合時間 1時間 25分

【準決勝】  $\frac{\text{富士通テン}}{\text{(兵庫県)}} 2 \left[ \begin{array}{c} 21 - 13 \\ 17 - 21 \\ 21 - 13 \end{array} \right] 1 \frac{\text{群馬銀行}}{\text{(群馬県)}}$

(主審)国分 常弘(福島県) (副審)七澤 公仁(東京都)

昨年惜しくも優勝を逃した富士通テンと、平成21年に同じく優勝を逃した群馬銀行の一戦となった。

第1セットの13点まではお互いの持ち味がでて、一進一退の白熱した攻防戦だったが、富士通テン12番阪本のサーブから流れを掴んだ富士通テンが一気に群馬銀行を突き放した。

第2セットも1セット目同様、序盤から一進一退の攻防戦だったが、群馬銀行の4番森泉の攻撃がよく決まり、終盤リードを奪った群馬銀行がそのまま逃げ切った。

迎えた第3セットは、序盤から富士通テンがブロック、アタック共によく決まり、一気に土俵際まで持って行きそのまま押し切った。全体を通して3セットまでもつれる一進一退の白熱した接戦の試合を制した富士通テンと、先に決勝への駒を進めているパナソニックエナジーの試合も、白熱した試合になる様に期待している。

(戦評) 森川 巧(三重県)

試合時間 51分

【決勝】  $\frac{\text{パナソニックエナジー}}{\text{(大阪府)}} 2 \left[ \begin{array}{c} 21 - 9 \\ 21 - 18 \end{array} \right] 0 \frac{\text{富士通テン}}{\text{(兵庫県)}}$

(主審)船山 久尚(新潟県) (副審)岸名 紀彦(宮城県)

決勝戦は、昨年と同じパナソニックエナジーと富士通テンの戦いとなった。

第1セット序盤からパナソニックエナジー津田のスパイクで勢いに乗り、試合を有利に運んだ。富士通テン安福のスパイクなどで粘りを見せるが、勢いに勝るパナソニックエナジーが第1セットを取った。

第2セット中盤まで一進一退の攻防が続くが、パナソニックエナジーが内藤のスパイクや田中のサーブポイントなどで富士通テンを突き放す。終盤富士通テンも狩野のサーブポイントで粘りを見せるが、最後はパナソニックエナジーが逃げ切った。パナソニックエナジーは2年連続3回目の優勝を飾った。

(戦評) 藤本 恒夫(福島県)